

令和5年12月吉日

全国大学音楽教育学会会員 各位
全国大学音楽教育学会関西地区学会会員 各位

全国大学音楽教育学会関西地区学会
会長 山岸 徹
(学会印省略)

全国大学音楽教育学会関西地区学会

令和5年度 後期研究会・臨時総会開催のご案内 (最終案内)

初冬の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は関西地区学会にお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、予てよりお伝えしておりました「**全国大学音楽教育学会関西地区学会 令和5年度後期研究会・並びに臨時総会**」の詳細が以下のように決定しましたのでご案内申し上げます。

今回は会員による3件の研究発表がございます。また、後半では、**二宮紀子先生 (十文字学園女子大学教授、全国大学音楽教育学会関東地区学会会長)**にご講演いただきます。

なお、当日は研究会の前に関西地区学会設立40周年記念演奏会の予算案について審議するための**臨時総会**も併せて開催いたします。

新年早々の開催ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願いいたしております。時節柄、一層のご自愛のほど、お祈り申し上げます。

1. 名称 全国大学音楽教育学会 関西地区学会 令和5年度 後期研究会・臨時総会
2. 日時 令和6年1月7日(日) 13:00開会 (12:30から受付、16:10ごろ終了予定)
3. 場所 **大阪キリスト教短期大学講堂**
〒545-0042 大阪市阿倍野区丸山通1-3-61 TEL 06-6652-2091
大阪メトロ(地下鉄)谷町線「阿倍野」より徒歩10分、阪堺上町線「松虫」より徒歩3分、
JR・大阪メトロ「天王寺」より徒歩17分
*車での入構はご遠慮ください。
4. 研究会参加費 会員1,000円、一般2,000円、学生500円、(情報交換会参加費5,000円)
*お支払いは、当日受付にてお願い致します。できるだけ釣り銭のないようにご用意下さい。
*令和5年度の年会費7,000円も同時にお納め下さい。
*令和5年度の年会費が未納で、後期研究会にご欠席の方は、1月5日までに下記へお振り込み下さい。
郵便振替口座：総合口座 記号：14220 番号：1167961
加入者名：全国大学音楽教育学会・関西地区学会
*他の金融機関から振り込んで頂く場合：ゆうちょ銀行
支店名：四二八 店番：428 預金種目：普通預金 口座番号：0116796
5. 内容 13:00 開始：学会諸連絡
13:10 臨時総会 議題：関西地区学会設立40周年記念演奏会予算案について
13:30 研究演奏発表
(休憩)
14:15 特別講演 講師：二宮紀子先生 (十文字学園女子大学教授、全国大学音楽教育学会関東地区学会会長)
演題：「子どもが歌う」という視点から保育における歌唱について考える
16:10 終了予定

6. 情報交換会 *久しぶりに以下のように情報交換会を開催することになりました。
皆様ぜひご参加ください。
時刻：当日 17 時～19 時、会費：¥5,000
会場：和食たちばな・あべのキューズモール店
(あべのキューズモール 4 階、ガーデンエリア)
7. 申込み方法 **12 月 22 日 (金) 【必着】**
*同封のハガキ (会長宛) を返送してください。欠席の場合も必ず返送をお願いいたします。
*一般の方のお申し込み、お問い合わせは E メールにて下記までお願いいたします。
事務局：桐山由香 E-mail y-kiriyama@osaka-aoyama.ac.jp

* * * * *

《研究演奏発表》

1. ピアノ連弾 Primo **山岸 多恵** (平安女学院大学)、Secondo **中村 愛** (同志社女子大学)
《3つのブリュエット》より 〈No.1〉、〈No.2〉、〈No.3〉
《ロマンド地方の踊り》 エミール・ジャック＝ダルクローズ 作曲
2. 歌曲発表 ソプラノ独唱 **桐山 由香** (大阪青山大学)
ピアノ伴奏 **永井 正幸** (大阪青山大学)
《春の山路》 松岸 寛一 作歌、永井 幸次 作曲
《雛菊》 松岸 寛一 作歌、永井 幸次 作曲
《五一ぢいさん》 松岸 寛一 作歌、永井 幸次 作曲
3. 声楽演奏 バリトン独唱 **三沢 大樹** (東海大学、関東地区学会)
ピアノ伴奏 **山本 学** (静岡県立大学短期大学部、中部地区学会)
《木の匙》 より 〈愛について〉、〈城砦〉
寺山 修司 詩、中田 喜直 作曲

* * * * *

《二宮 紀子 先生のご講演》

演題：「子どもが歌う」という視点から保育における歌唱について考える

領域「表現」は子どもの表現を根本から捉えなおし、表現と捉える範囲を拡大しました。音楽の分野で考えると、音楽として捉えられるものは楽音による表現にとどまらず、風や水等の自然音にまで拡がりました。さらに既製の音楽作品を演奏するだけでなく、自ら音楽を作る、つまり自発的に主体的に音楽することが求められ、即興演奏や創造的音或いは音楽活動が注目されるようになりました。こういった拡がり、子どもの表現が生活や遊びという具体的な行動と密接に関わっているという考え方、子どもは私たちが創りあげてきた音楽という文化的実践をただ与えられるだけの存在ではなく、自ら創り出す存在だという考え方から生まれたのです。

ですがここで私達を悩ませるのは、こういった考え方の中で、既製の音楽作品を練習し演奏するという表現は、子どもにとって自発的な表現活動にはなりえないのかといった疑問です。

今回は子どもが歌い始めるころの姿に焦点を当て、前半は子どもの歌にまつわる諸問題、歌詞の配分やリズム、拍子、音程といった問題について整理したいと思います。後半は子どもの歌唱を育てる大人の関りについてお話しすることで、前述の疑問に立ち向かいたいと思います。

二宮 紀子 先生プロフィール：

十文字学園女子大学 教育人文学部 幼児教育学科 教授

国立音楽大学楽理科卒業、東京芸術大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了

國學院大學幼児教育専門学校、東京福祉大学社会福祉学部保育児童学科等を経て

現在、十文字学園女子大学教育人文学部幼児教育学科教授。全国大学音楽教育学会関東地区学会会長。

著書に「歌って、弾いて、書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」(音楽之友社)、「コンパス音楽表現」(共著) (建帛社) 等がある。